

【第1回勉強会】

南一条地区のまちづくり

2014.10

南一条地区開発事業推進協議会
事務局

目 次

南一条地区まちづくりの検討経緯

- ・南一条地区開発事業推進協議会の設立(1999)
～南一条地区ランドデザイン(案)の策定(2013)まで

南一条地区まちづくりの目指すもの

- ・南一条まちづくりビジョン(2010)より
- ・まちづくりの考え方(2011)より

南一条地区まちづくりの検討経緯

◆1999年(平成11年)11月

【南一条地区開発事業推進協議会設立】

- ・初代会長 : 岩井 滉 氏(平成11年就任)
第2代会長 : 斎藤 元護 氏(平成17年就任)
第3代会長 : 森吉 丈夫 氏(平成20年就任～現在)
- ・構成
南一条通を中心として西1～3丁目までの商業者で構成される
“札幌一番街商店街振興組合”を母体として設立
(正会員20社・準会員13社)
- ・設立趣旨
地域が一体となり、具体的に行動を起こし、地域のにぎわいの維持・
回遊性の向上、地区の更新を誘導できる『マスタープランづくり』の
役割を担う組織として設立

◆2000年(平成12年)3月

【南一条地区まちづくり構想策定】

<SAPPORO・No1・Street の実現>

- ・札幌市の将来まちづくりの方向性と
地元意向を踏まえたマスタープランの策定
- ・新たな商業機能導入の方針、
公共的空間と周辺建物とのネットワークのあり方
- ・一番街商店街の将来の管理・運営のあり方
- ・行政との役割分担を考慮した事業化方針の検討



札幌市に協力要請(2000年6月)

◆2002年(平成14年)

協議会は、札幌市との官民協働による
『一番街商店街周辺地区まちづくり協議会』を設置

◆2004年(平成16年)

【まちづくり指針策定】

<方 針>

- ・街並み景観や低層部の使い方のルールづくり
- ・歩行者回遊ルートの創出
- ・地下歩行者ネットワークの形成
- ・まちを効果的に活用する組織づくり
- ・地区までの交通支援、地区までの回遊性の確保 …等

◆2002年(平成14年)～2005年(平成17年)
【活性化活動スタート】

【2002年(平成14年)】
イルミネーション事業キラリアムスタート
(2006年まで継続)



さっぽろホワイトイルミネーション



【2003年(平成15年)】
オープンカフェ(花カフェ)の開設



【2005年(平成17年)】
グリーン・オン・パレードのスタート
(札幌とともに路上を緑で飾る取り組み)



◆2006年(平成18年)

【南一条地区街並みガイドライン策定】

「エリアマネジメント」の考え方の導入

まちづくりに経営の概念・手法を取り入れる。



まちの経営を担う組織を立ち上げ、地域の魅力向上の事業を展開。

- ①南一条にふさわしい落ち着いたある色彩の街並みづくり
- ②上質な街並みに配慮した看板・広告物の設置
- ③一年中楽しく歩ける歩行者空間づくり
- ④まちの回遊性を高める地上～地下ネットワークづくり …等

◎ 都心まちづくりフォーラム2006開催

街並みガイドラインの対象



建物



中間
領域



歩行者
空間



建物

建物の意匠・形態などについて
方向性

- 街並み景観や任層部
- 時間消費型、文化情報発信機能の導入

ガイドラインで定める項目

- 建物用途
- 壁面のしつらえ
- 看板、サインのルール



中間
領域

建物壁面、沿道空き地、歩行者空間などの運営・管理について
方向性

- 札幌都心の風物詩をプロデュース
- まちを効果的に活用する組織作り

ガイドラインで定める項目

- 置き看板の禁止
- 駐輪、駐車ルール
- 夜間のにぎわい演出
- イベントの実施



歩行者
空間

形態・配置などについて
方向性

- 歩行者回遊ルートの構築
- 地下歩行者ネットワークの形成
- 地区までの交通支援
- 地区までの回遊性確保

ガイドラインで定める項目

- バリアフリー化
- ロードヒーティングの設置、運用
- 花、緑、ストリートファニチャーなどの環境づくり

※ 街並みガイドラインでは、「建物」「歩行者空間」だけでなく、「中間領域」の運営・管理についても定めます。
官と民の領域の「接」部分(中間領域)は、歩行者空間ににぎわいをもたらす、建物に歩行者を引きつける領域として重要です。

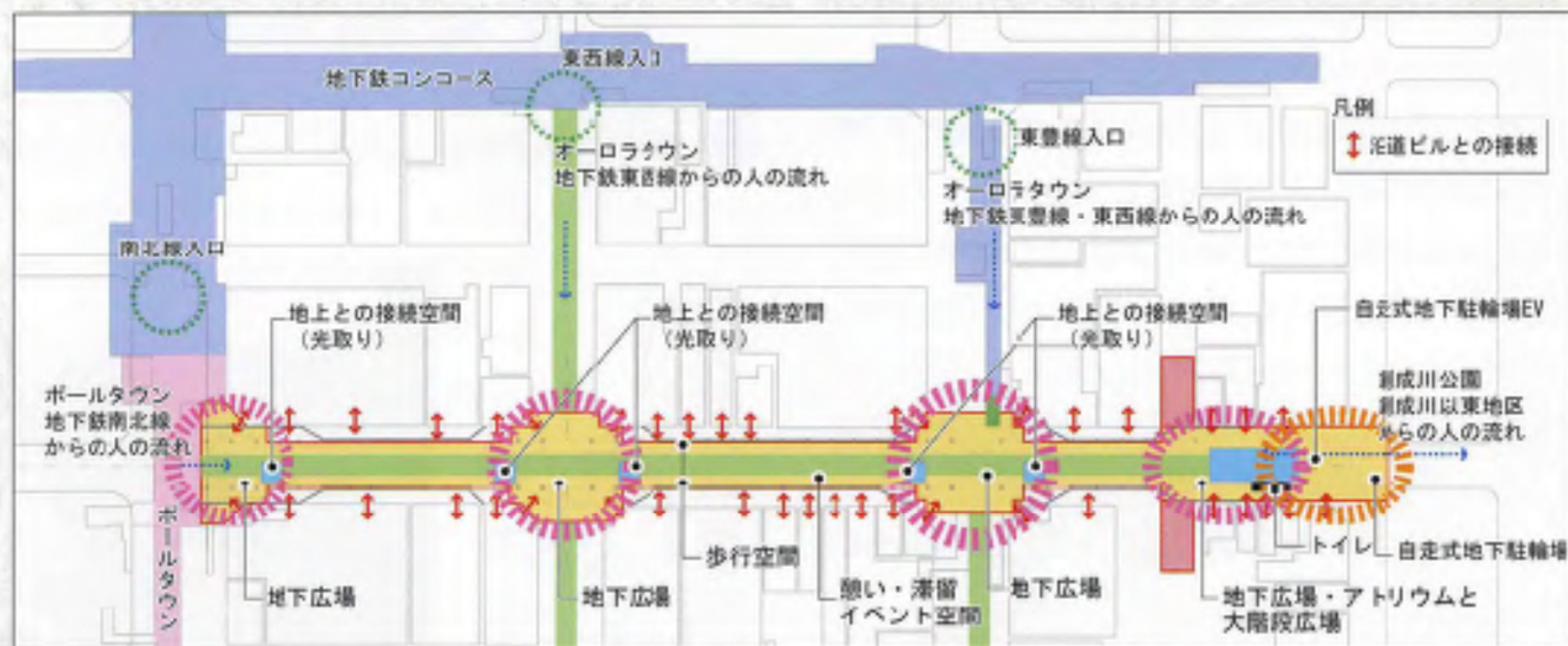
◆2007年(平成19年)

【南一条地区地下歩行者ネットワーク構想の策定】

＜地下の歩行者ネットワークの形成＞

- ・格子状のネットワーク
- ・地下の“大通公園(憩いの広場)”の整備
- ・地下街のポールタウン、オーロラタウン、大通コンコースとの接続
- ・店舗等や公共的空間の配置と地下広場の整備
- ・隣接する建物との地下での接続
- ・都市施設や公共施設等を併設することも視野に入れる(将来対応)

【地下空間平面図】



※ 上図は導入機能や空間のイメージを記載したものです。

各施設の位置等は、関係機関と調整をはかったものではなく、確定したものではありません。

◆2008年(平成20年)～2011年(平成23年)

【地下歩行空間の実現に向けた動き】

【2008年(平成20年)】

- ・地下歩行者空間の整備に関する「要望書」を上田市長に提出
- ・三者懇談会(札幌市、札幌商工会議所、協議会)の開催
- ・札幌市関係部局との市の「南一条まちづくり計画」策定に向けた意見交換、調整がはじまる

【2009年(平成21年)】

- ・「南一条地区地下・交通施設等検討報告書」を札幌市に提出

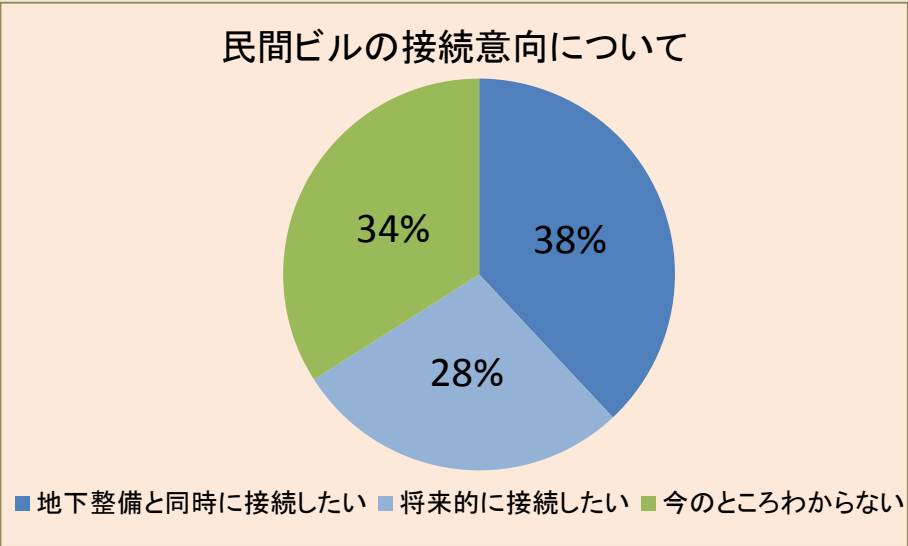
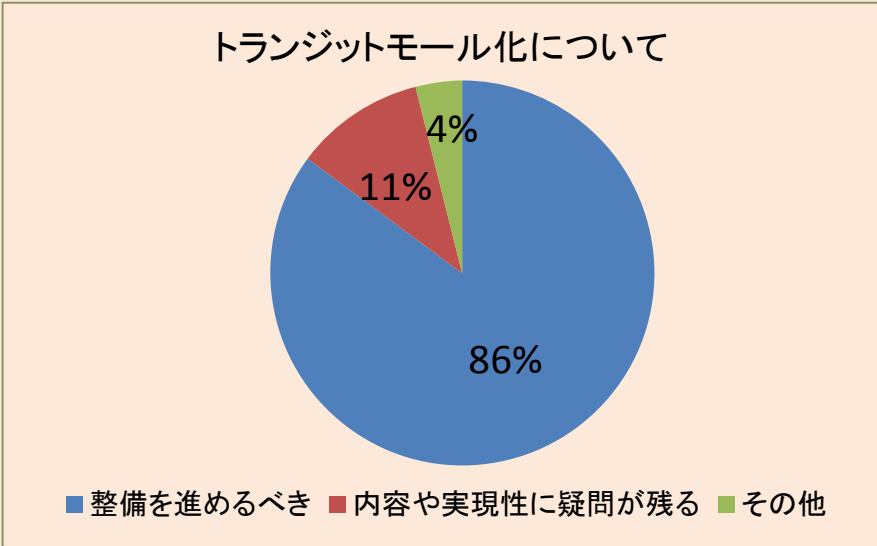
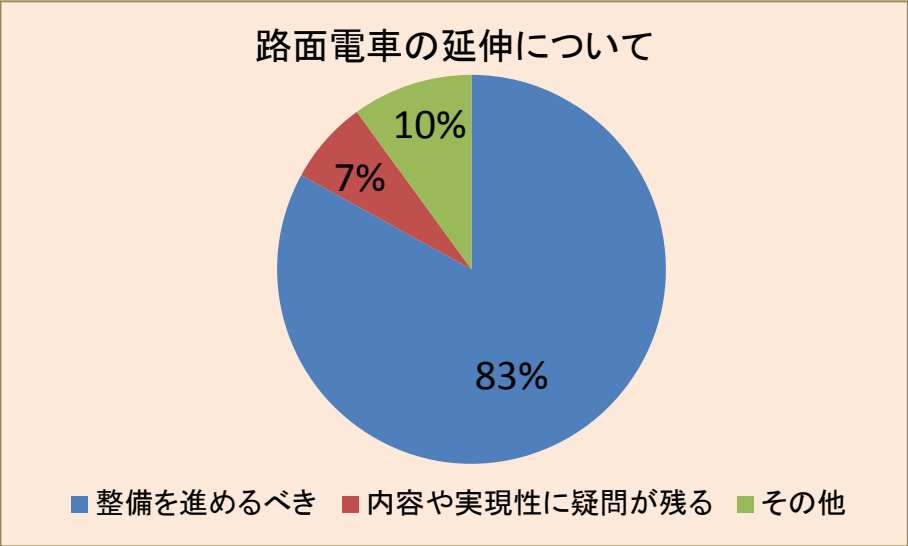
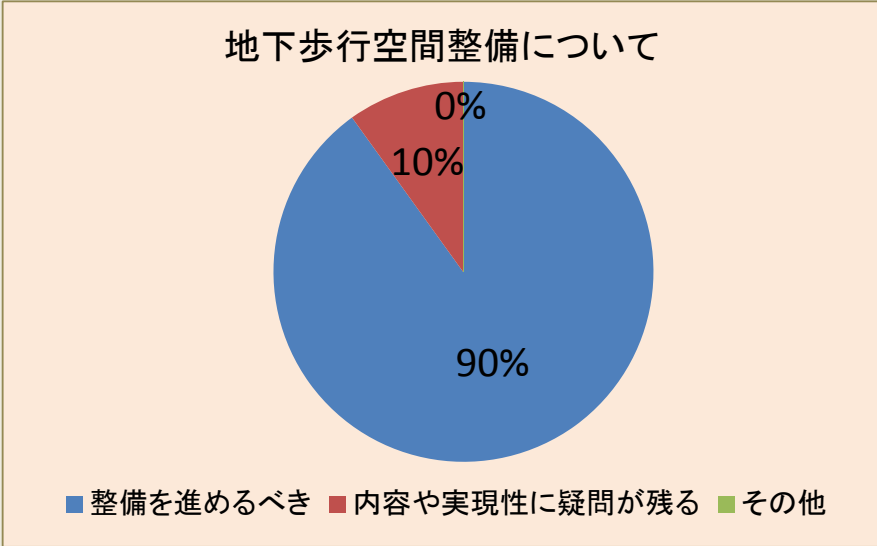
【2010年(平成22年)】

- ・札幌市が「南一条まちづくり計画」策定に着手(2か年計画)
(協議会も策定作業へ参加)
- ・南一条のまちづくりに関する「要望書」を上田市長に提出

【2011年(平成23年)】

- ・札幌市長マニフェストに「民間開発と一体で行う南一条地区の地上部再整備、地下歩行空間の整備」が明記される

南一条地区のまちづくりアンケート結果



◆平成22年10～11月実施 ◆南一条地区土地建物権利者対象 ◆回収率59%(34棟)

◆2011年(平成23年)

【札幌南一条地区開発事業推進協議会のあゆみ】作成
【まちづくりの考え方・事業実現に向けて】作成

【まちづくりの考え方】

○まちづくりの目標

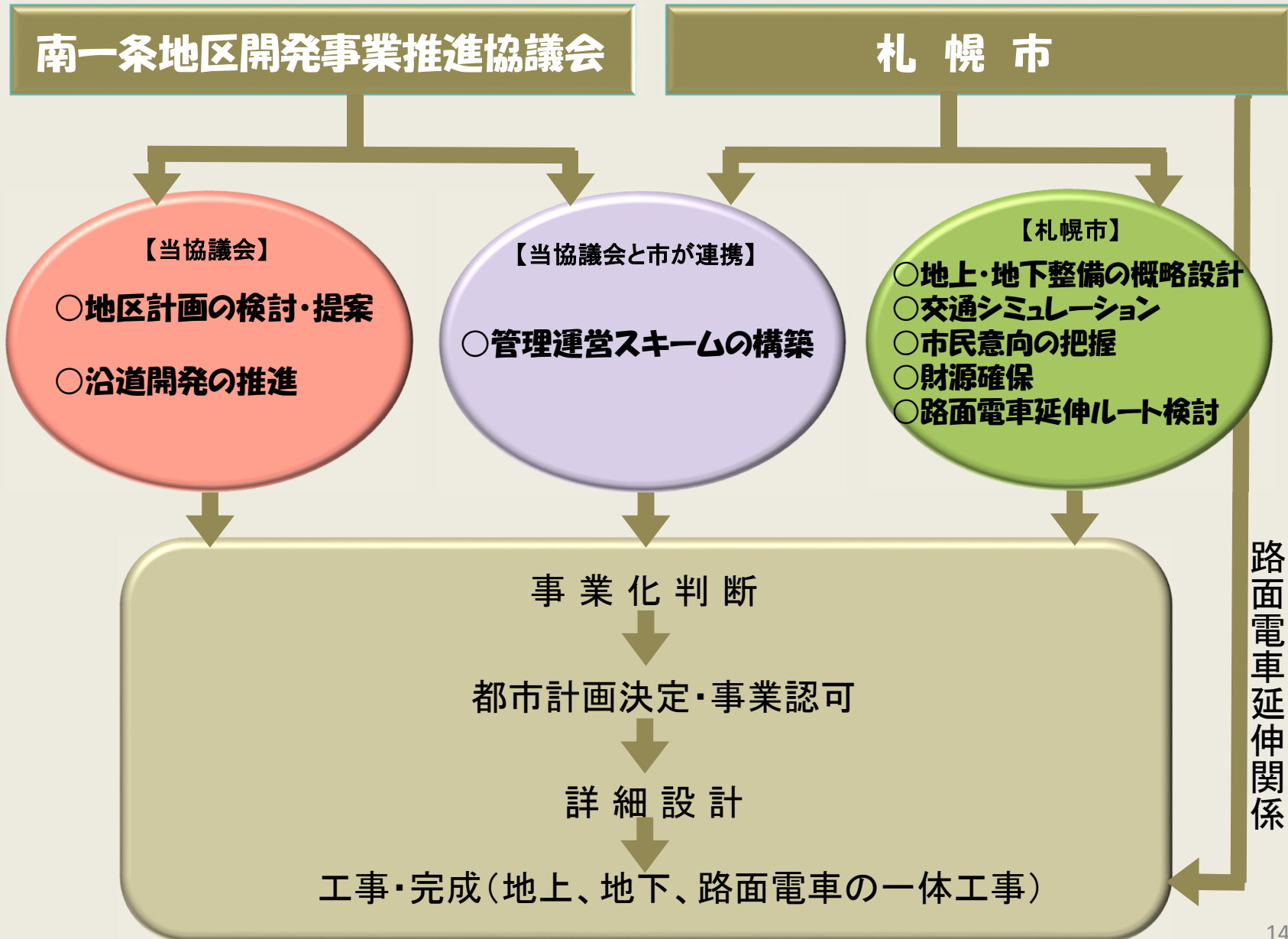
『賑わいと札幌ライフスタイルを創造する 新南一条ストリート』

○南一条地区開発事業の重点項目と空間づくりの考え方

- ・トランジットモール化(地上の広場化)
- ・地下歩行空間の整備
- ・環境に優しい交通システムの再構築

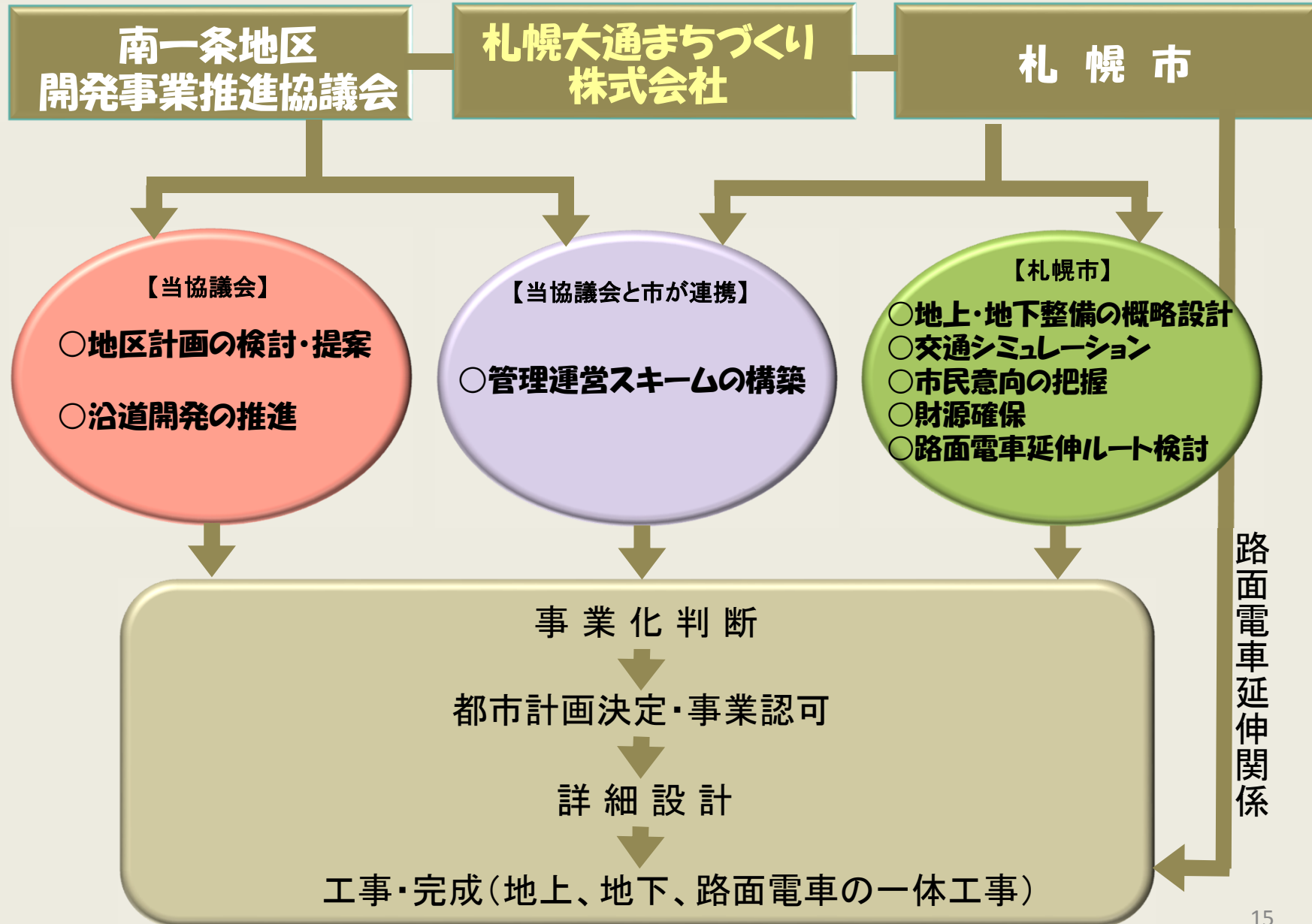
【南一条地区開発事業の実現フロー】

当初



【南一条地区開発事業の実現フロー】

現在



◆2013年(平成25年)

【札幌南一条グランドデザイン(案)の策定】

大通地区の顔としての南一条地区の広場化と再整備

札幌全体の回遊性のために【大通地区は拠点の機能が必要】

大通地区は、【“札幌的コミュニティ機能”に特化し、拠点機能を強化していく】

- ◎コミュニティの核としての広場(みなが集い、みなで楽しむ場)の整備
- ◎地下整備によるアクセス向上

※札幌的コミュニティ機能とは・・・

- (1) 市民活動情報発信、(2) 地場産業情報発信、(3) 育児施設・生涯学習施設、(4) 市民交流の場など地元住民が生活に使う機能など、市民生活を豊かにする機能を指すものであり、これら機能を持つ地区の顔となる広場を整備する。

道路広場化の具体案

＜象徴的構築物の必要性＞

・広場が求心力の高い札幌市民の生活の場となるために、十字形広場交差点(南1西3交差点)のシンボリックな構築物は、その象徴として重要になる。

・デザイナー選定委員会を設置



・伊東豊雄建築設計事務所に依頼

【象徴的建築物】

にぎわいを演出する「みんなの輪」
札幌南一条大通の広場化に伴って、
交差点に人々の憩いの場を創出する
ようなシンボルをつくる

※提案の実現に向けては、交通問題など課題の検討が必要となります。

昼景



夜景



南一条地区まちづくりの目指すもの

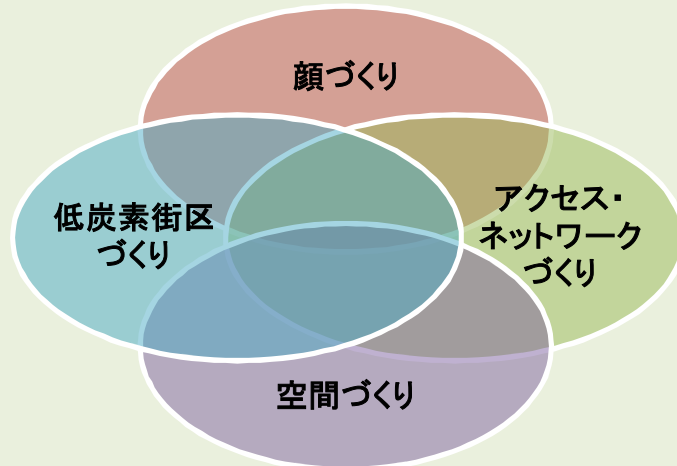
南一条まちづくりビジョン (上田市長への要望書／2010年11月)

【南一条地区の目標】

いつの時代にあっても…

『みんなに愛されるまち』・『みんなにやさしいまち』・『みんなが行きたくなるまち』

【南一条まちづくりの基本方針と整備の重点事項】



- ① 地下歩行空間の整備
- ② 路面電車の延伸
- ③ トランジットモールの整備
- ④ 官民協働による公共空間の整備・運営

まちづくりの考え方

(南一条地区開発事業推進協議会／2011年6月)

【まちづくりの目標】

賑わいと札幌ライフスタイルを創造する 新南一条ストリート

● まちの将来像

【生活】

過ごして楽しい!!豊かな市民生活を創造するまち...

【文化】

みんなが愛する!!新たな札幌文化を創造するまち...

【環境】

人・地球にやさしい!!環境首都札幌を実現するまち...

● まちづくりの基本方針

顔づくり

－北海道、札幌の賑わいの中心としての伝統を受け継ぐ上質な「顔づくり」

繁がづくり

－札幌都心の回遊性を促進する「歩行空間と公共交通のネットワークづくり」

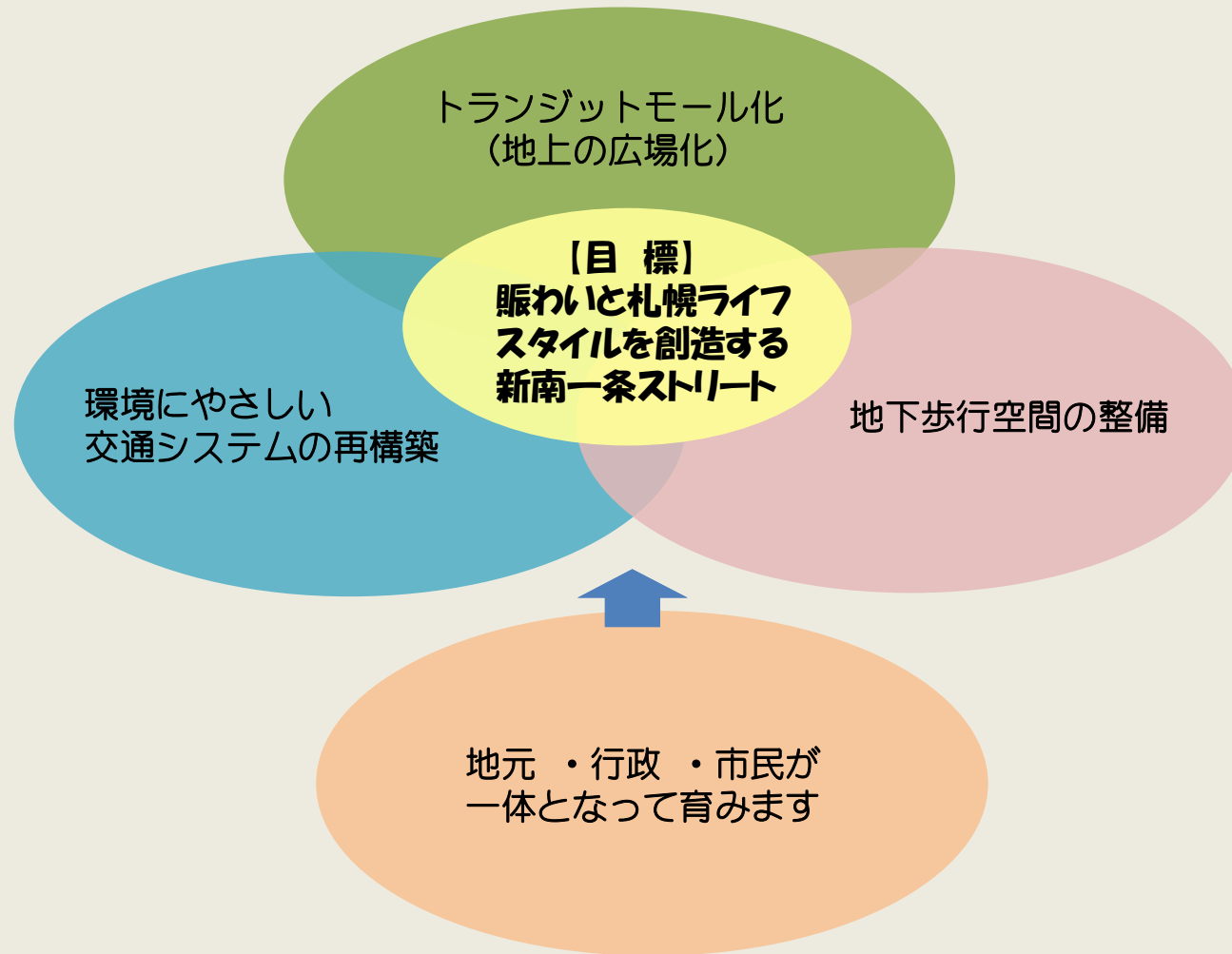
舞台づくり

－夏も冬もいつでも人に優しく、多様な活動が展開される「広場とストリートづくり」

エコづくり

－地球にやさしい「環境負荷低減を目指すまちづくり」

南一条地区開発事業の重点項目



協議会が考える“南一条地区開発事業”

【ネットワークづくり】

- ・路面電車の延伸
- ・歩いて楽しい街区づくり
- ・トランジットモール化による人のための空間づくり
- ・天候に左右されることなく快適に歩ける地下歩行空間の整備

【地下空間】

- ・地下広場の創出(ゲート広場、交流広場、シンボル広場、文化発信ゲート広場)
- ・開放的な地上と地下の接続空間づくり
- ・開放的な地下空間の実現(柱がなく天井が高い)
- ・地下空間の魅力的な歩行・滞留空間づくり
- ・地下駐輪場の整備

【地上空間】

- ・日常的な集いや憩いを生み出す広場の活用
- ・都心部の「冬」の新たなライフスタイル提案
(冬のマーケット、アートワークステージ、雪や冬を楽しむイベント等)
- ・デザイン性に優れ話題性のあるストリートファニチャーの導入
- ・新たな環境時代の象徴となるような路面電車の導入
- ・柵や段差のない連続的な歩行空間の実現
- ・自転車で来やすいまちづくり(自転車レーン、レンタサイクルの導入等)